

長崎の経済を強くする

長崎県議会議員

# 中村たいすけ だより

発行責任者：中村泰輔 / 編集責任者：中山好文

2019.07

# 01

夏号

情熱と行動 未来への責任

特集

# 一般質問

総集編

令和元年度6月  
県議会補正予算

連載  
インタビュー  
第0回目 「中村泰輔」

長崎のアンカー  に。

経済、  
新幹線、  
海洋産業。

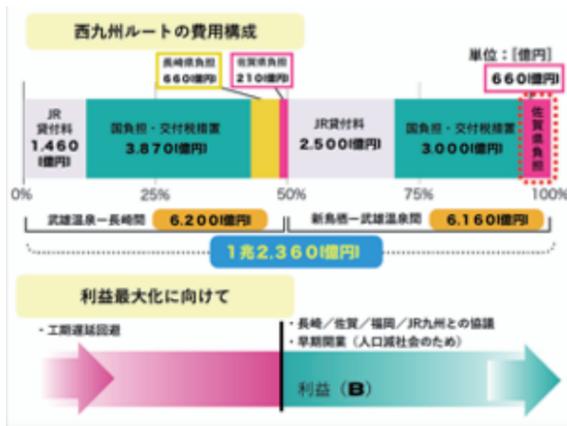
中村  
たい  
すけ



## ①九州新幹線西九州ルート

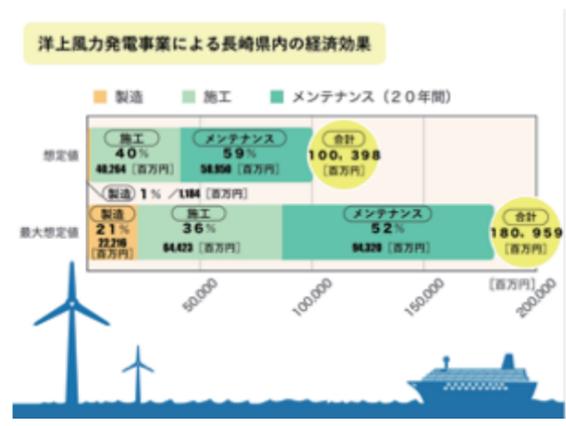


武雄温泉での対面乗換が続く場合、費用対効果は0.5となり、長崎県が投資した660億円のうち330億円しか回収できない。新鳥栖-武雄温泉間をフル規格で整備しなければ、西九州ルートは日本の負の遺産になってしまうと主張した。



佐賀県負担分は全体の5%しかない。その方針が決まらずに時間だけが過ぎていく。一方利益最大化のためには、一刻も早い開業が求められる。よって早急な整備方針の決定が求められると主張した。

## ②洋上風力発電



県経済に与える影響を試算し、県からもほぼ同様の試算結果を得た。経済効果のうちメンテナンスに関わる比率が大きいため、人材育成が重要であると提唱し、県から「専門人材育成センター開所」の回答を得た。

## ③長崎港の活用

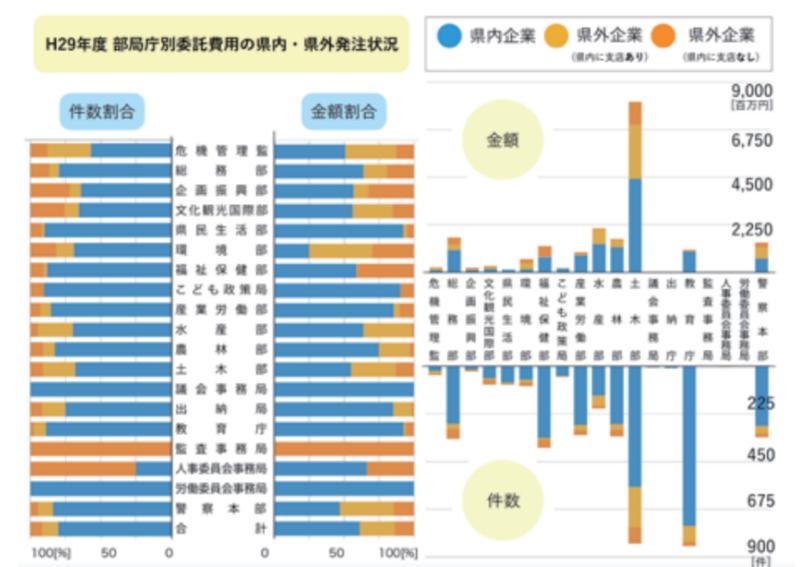


2バース化、客船母港化のためには、まちづくりとの連携が重要となる。造船関連企業・ホテル関係などの企業間の連携、また長崎市との連携のため、「長崎港活用クラスター協議会の発足」を提案した。

この度の議会におきまして、初めての一般質問の機会を与えられました。私を支援してくださる皆様のために、愛する長崎の未来への発展の一翼を担えるように私に与えられた役割を全うして参ります。

①まずはJR東海にて新幹線運転士をしてきた経歴を生かし西九州ルートについて質問致しました。新鳥栖-武雄温泉間の佐賀県負担分の早期決着に対する知事の決意について伺ったところ、「令和4年度からの対面乗換では費用対効果を得られず、対面乗り換えの長期化は長崎のまちづくりの重大な影響を及ぼすことになる。国に対し引き続き強く要望をしていくと共に、同区間の早急な整備実現に全力を注ぐ」との回答をいただきました。

## 部局別県外発注状況



全部局横断で県内企業の発注割合を定量的に把握すれば、県内企業の強みと弱みを相対的に掴むことができ、どの分野に投資すれば良いのか、より効果的な税金の有効活用が可能となる。このような取組みを県に提案し、また県内発注をこれからも監視すると伝えた。



②洋上風力発電については、4月より施行された再生エネルギー法による長崎への経済効果については、単年度では289億円の売上と2590人の雇用創出を目指しているとの回答を得ました。さらに洋上風力発電に関する経験の浅さについては、県内企業に対する高度な人材育成支援が必要ではないかという提案に対し、クラスター協議会及び県内大学との連携を図り、国

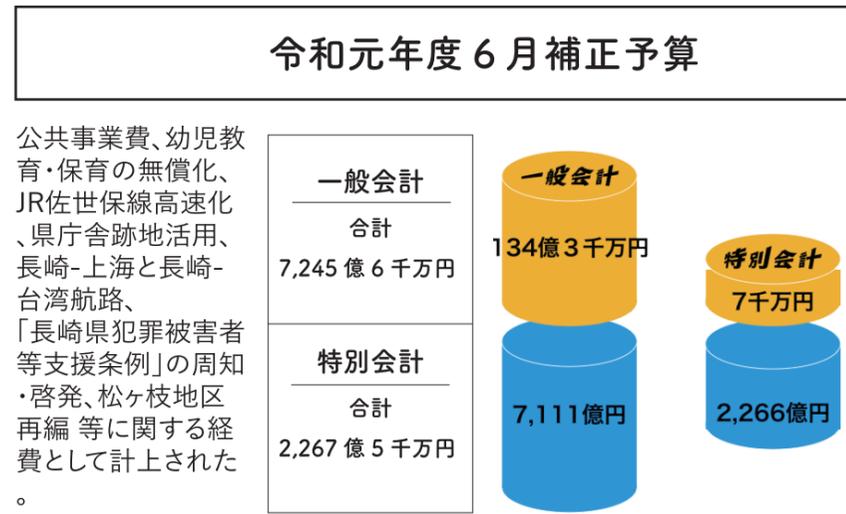
内初となる専門人材育成センター開所に向けて準備を進めているとの回答をいただきました。

③長崎港の活用については、2バース化は国において事業化検証費が計上され、新規事業化に向けて前進したプロジェクトであり、客船母港化は地域経済活性化や新規雇用創出のためにも、三菱重工業とも連携しながら実現に向けて力を注いでいくとの力強い回答をいただきました。

④県内企業の発注割合を高める方策につ



※客船母港化のメリットとは…長崎港を囲む造船会社での客船メンテナンスによりドック入り前後に宿泊を伴う発着クルーズの増加が期待できること。



# 中村 泰輔

vol. 0

次回から企業インタビューを掲載いたします。初回は「久保工業株式会社」様です。お楽しみに

## プロフィール

- 1980年 長崎市生まれ。
- 1996年 西浦上中卒。
- 1999年 長崎北高卒。
- 2004年 九州大学工学部機械航空工学科卒
- 2006年 同大学院環境エネルギー工学専攻修了
- 2006年 JR 東海入社  
- 東海道新幹線運転士／車掌／  
駅係員／指令員の運輸業務に従事
- 2008年 三菱重工株式会社入社  
- 千葉県銚子沖の日本初洋上風車の開発 担当として、設計業務に従事
- 2013年 本社調達部に異動  
- 三菱重工グループ全製品の改善活動業務に従事
- 2015年 三菱造船株式会社に異動  
- 長崎県のビジネスパートナー様の協力を得て、LNG 船の調達業務に従事
- 2019年 長崎県議会議員に初当選



「初当選から4ヶ月が経とうとしています。今の心境は？」

「皆様の支援で当選させていただきました。本当に有難うございます。お世話になった全ての皆様にご挨拶が出来ておらずに申し訳です。初議会となり、6月には早速初めての一般質問の機会を頂きました。中村知事と行政の理事者の皆様に対し、選挙戦から政策として訴えてきた内容を中心に述べさせて頂きました。議員としての大舞台を早くから経験させて頂いたことで、県議の発言力とその責任を改めて理解しました。議員の発言や提案に対し行政は真摯に受け止め実行することが求められます。よって、議員がどのような質問をし、さらに知事と理事者からどのような答弁を引き出すのか。これが重要となります。反省も多くなりますが、答弁をいかにして政策とするのか、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

「その後、参議院選挙もありましたが、どうでしたか？」

「『白川あゆみ』さんと『田中ひさや』さんへのご支援、有難うございました。白川あゆみ総合選対事務所の事務局次長として約2ヶ月間入り込んで候補者を支援いたしました。残念な結果に終わりましたが、長崎市・長与町では勝利するなど、皆様からのご支援を明確に感じることができました。これから活動はどのように考えていらつしやいますか？」

「私の指名は、長崎の基幹産業である「造船・エネルギー」産業について、政治・行

## 中村たいすけに 皆様のお声を聞かせてください！

中村たいすけは現在、思いを実現させるための具体策を明記した政策集を作成中です。多くの方達の声を反映させてより良い政策を立てていくためにも、皆さんの長崎の未来に対する思いを中村たいすけにぶつけてください。その声が長崎の一部になっていきます。

政と共に未来を描き、その中でこの街の経済を強くすることです。一般質問を通して具体的な方向性が見えました。さらに深化させて結果を出すこと。こだわり仕事をしてまいります。

半分は自らの志、残りの半分はご支援いただく皆様の声だと考えております。常に皆様の声を伺いに参ります。今後ともどうかよろしくお願い致します。

